

# 短歌 技法①

年 組 名前 ( )

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

意味

① ↓ たとえるときに「よう」「ようだ」などを使いない。

② ↓ 語順を逆にして意味を強める。

③ ↓ などを用いる。「ようだ」と「よう」に「ようだ」

④ ↓ 基本の音数より少なくする。

⑤ ↓ 短歌の最期を体言で終わらせる。この順に並べる。

⑥ ↓ 文の最後を強める。ことで、感動をわらせる。

⑦ ↓ 人でないものとえて表現する。技法。

⑧ ↓ 似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

⑨ ↓ 基本の音数より多くする。

⑩ ↓ 同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、感み出しきり。感を生み出す。

例

ガラスの心

勉強する、国語を。

②①目覚めるように

七音なので一字足りないと、

雲のようだ(六音)が基本  
始まりが「初句」(しょく)  
終わりが「結句」(けつ)

五句三十一音が基本  
始まりが「初句」(しょく)  
終わりが「結句」(けつ)

②①  
青い  
秋の  
夕暮  
れか  
チ

②①空がほどよめく  
大地がほどよめく

①山は大きく、人は小さい。  
②青い空、白い雲

大地がほどよめく(八音)が  
七音なので一字余る。だとすると、

②①ゆつくりとゆつくりと  
右に右に右に右に

## 短歌 技法②

年 組 名前 ( )

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアヽコを書き入れなさい。

コ 五・七・五 ( )	ケ 隱喻 ( )	ク 字足らず ( )	キ 直喻 ( )	カ 体言止め ( )	オ 反復法 ( )	エ 字余り ( )	ウ 対句 ( )	イ 擬人法 ( )	ア 倒置法 ( )
文の最期を体言で終わらせることで、 感動を強める。	語順を逆にして意味を強める。	基本の音数より少なくする。	人でないものを人にたとえて表現する技法。	「たとえるとき」「「ようだ」など用いる。」	基本の音数よりも多くする。	短歌の基本形式。 三十一音をこの順に並べる。	同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、 リズム感を生み出す。	「たとえるときに」「「ようだ」など用いない。」	似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

意味

## 短歌 技法③

年 組 名前( )

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアヽコを書き入れなさい。

例

### ア 倒置法

( ) まるで雲のようだ。

### イ 擬人法

( ) 結句(最期の句)を8音にする。

### ウ 対句

( ) 太陽が吠える。

### エ 字余り

( ) カバンに入れる、教科書を。

### オ 反復法

( ) 走る、走る、走る。

### カ 体言止め

( ) 三十一音が短歌の基本形式。

### キ 直喻

( ) 結句(最期の句)を6音にする。

### ク 字足らず

( ) ガラスの心

### ケ 隠喻

( ) 夜は寒く、昼は暖かい。

コ 五・七・五  
七・七・五